

国際エネルギー情勢を語る「Narrative」の変化とその意味

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
専務理事 首席研究員
小山 堅

国際エネルギー情勢には、次から次へと常に新たな展開が生まれ、変転極まりない状況が続いている。変転・変化の連続は「世の常」であるといつても良いが、2020 年代に入ってからは、その変化が特に激しく、変化の振れ幅も著しく大きくなっている、ということができるだろう。

こうした国際エネルギー情勢の激しい変化をもたらす要因には様々なものがある。世界経済の状況など、マクロ的な要因も重要である。全く想定していなかった事象・自然災害・事故・事件、例えばコロナ禍の発生、などが甚大な影響をもたらすこともある。戦争・軍事衝突・テロなどによる地政学リスクも重要な変化をもたらす要因である。エネルギーや気候変動に関する政策が劇的に変わる政策変更リスクも極めて今日的な重要要因である。

2020 年代に入ってからの変転極まりない国際エネルギー情勢の背景には、その変化をもたらした一つ一つの要因がある。その複合体・総合体として、今日に至る国際エネルギー情勢が形作られてきている、ということができるだろう。これらの変化要因の多くは、ある意味で、実態としてエネルギーの需給やファンダメンタルズに直接作用し、変化をもたらす傾向が強い。他方、直接、需要や供給を変化させるだけでなく、市場におけるアクター・プレイヤーの行動に変化・変容をもたらすことで、国際エネルギー情勢を動かすような場合も見られる。いわゆる「政策変更リスク」などには、その傾向がしばしば見られることになる。

後者に関連して、最近の国際エネルギー情勢においては、もう一つ別の種類の興味深い変化要因が存在するようになっており、筆者はそれへの関心を強めている。それは、国際エネルギー情勢を語るための一種の「ストーリー」である、「ナラティブ」の変化である。

「ナラティブ」とは何か、どう理解すべきか。様々な考え方があり、答えは決して一様ではないだろう。最大公約数的に考えると、「ストーリー」「語り」であり、社会科学の観点で捉えようとするならば、一定の意図をもって作り上げられた言説であり、その作り手が持つ意識・視座・認識が主観的に反映された物語として、その受け取り手の行動などに一定の影響を及ぼすもの、と考えることができるだろう。強力な「ナラティブ」は、社会に対して強い影響を及ぼし、意識・行動を変容させることもありうる。

小論「国際エネルギー情勢を見る目」前号（780 号）において、参加した国際会議の場において「ナラティブが変わった」という意識を受け取ったことを述べた。その点をもう一度改めて咀嚼してみるのが今回の小論のテーマということになる。

「エネルギー安全保障は重要である」というナラティブは古くから存在する。エネルギーが暮らしや経済を支える必須の基礎物資であるため、このナラティブは常に影響力を持ちうるものである。しかし、エネルギー価格が安定し、低廉であり、供給に不安が無い時などは、エネルギーは「空気や水」のように、あって当たり前の存在となる。このようなときには、上記のナラティブはほとんど何の影響力も持たなくなる。

2020 年以降、国際エネルギー情勢を、そしてある意味で国際情勢全般を大きく動かして

きたナラティブは、気候変動対策強化を最重視し、GHG の排出ネットゼロの達成を目指すことこそが世界の最重要課題である、とするものであったようと思われる。

世界の主要国が次々に21世紀半ば頃におけるカーボンニュートラル実現を目指す目標を発表し、世界のエネルギーの論壇をリードする国際エネルギー機関が発表した世界全体の2050年排出ネットゼロを描く NZE シナリオがエネルギー問題の議論の中心になるなどの出来事は、まさにこのナラティブが絶大な影響力を持っていた時期のものである。

この時期は、上述の強力なナラティブに疑問を呈したり、抗うような姿勢を示したりすることは、誰にとっても容易ならざるものであり、ある意味ではリスクを伴うものでさえあった。このナラティブの本質が、地球の環境を守り、気候変動を防止し、人類・地球のために貢献することを提言する「正しさ」に基づきおいていることは重要な意味を持つ。その意味では、今現在でも、気候変動を防止し、脱炭素化を進め、GHG 排出ネットゼロを目指すナラティブの重要性は何ら変わっていない、ということができるだろう。

しかし、2022年以降の国際エネルギー情勢を見ると、ウクライナ危機によるエネルギー価格の高騰とエネルギー市場の不安定化が、現実的に深刻なエネルギー問題を世界につきつけることになった。中東情勢が、またロシア情勢が、エネルギー市場の不安定化要因として意識され、地政学リスクの存在と影響がクローズアップされるようになった。世界の分断が深刻化し、経済安全保障とエネルギー問題が密接にリンクされ、新しいエネルギー問題となった。

また、生成AIとデータセンターの拡大の下、世界的に電力需要増大に対応する電力安定供給問題が喫緊の重要課題として意識されるようになった。そして、これらの状況の下、世界はエネルギー価格やコストの上昇を受け入れることが容易でないという事実が白日の下に晒され、暮らしや経済を守るためにどうするか、という足下の現実問題がエネルギー政策の優先課題となる状況が生まれてきた。

この間に発生した上述の変化を踏まえて、今の世界で最も中心的となってきたナラティブが、「エネルギー政策の要諦は如何に安定的に手頃な価格で必要なエネルギーを確保・提供するか」ということなのではないか。今日、我々が目の前にしている国際情勢及び国内の社会・経済情勢を前提とすると、このナラティブが今後も強力な影響力を持続することが大いにありそうである。エネルギーが必須の物資であるという基礎条件に加え、所得分配の不均衡が拡大し、多数の相対的低所得層が存在する社会へと「分解」が進んできた今日の各国情勢では、このナラティブは説得力と影響力を保持しやすい。

繰り返しになるが、気候変動を防止し、脱炭素化を推進することの重要性そのものは現在でも何ら変わっていない。むしろ、世界的な猛暑・豪雨など異常気象頻発などの状況を考えると、対策強化の重要性は一層高まっている、ということができる。しかし、そのためのナラティブは、数年前までのようないい推進力を欠いているのも事実なのである。

国際エネルギー情勢とナラティブの関係には、国際情勢変化の中でナラティブが生まれ、影響力を持つようになるという面と、そのナラティブが国際エネルギー情勢の変化をさらに後押ししたり、変化の方向に影響を及ぼしたりするなど、相互関係も存在する。強力なナラティブは、マスメディア、SNSなどを通じて人々の意識や行動に影響し、政策決定や企業の投資行動、資金調達やファイナンスの世界などにも広範な影響を及ぼす。今、強い影響力を持っているナラティブがいつまた変わりうるのか、変わるとするならばどのように変わるのか、は国際エネルギー情勢を見る上で重要なポイントの一つである。重要な変化の先読みポイントとして今後も注目していく必要があろう。

以上